

○職域加算部分（～2002）（K, X）

1. 組合員全期間計（K, X, T）が240ヶ月（20年）未満の場合

職域加算部分（～2002）（K, X）

$$= \Sigma T (\text{年金算定平均標準報酬 (～2002) (K, X, T)} \\ * \text{職域部分乗率未満 (～2002) } W(X) * \text{組合員期間 (～2002) } W(K, X, \\ T) \div 12 * \text{年金改定率} W(K, X))$$

2. 組合員全期間計（K, X, T）が240ヶ月（20年）以上の場合

職域加算部分（～2002）（K, X）

$$= \Sigma T (\text{年金算定平均標準報酬 (～2002) (K, X, T)} \\ * \text{職域部分乗率以上 (～2002) } W(X) * \text{組合員期間 (～2002) } W(K, X, \\ T) \div 12 * \text{年金改定率} W(K, X))$$

○職域加算部分（2003～）（K, X）

1. 組合員全期間計（K, X, T）が240ヶ月（20年）未満の場合

職域加算部分（2003～）（K, X）

$$= \Sigma T ((\text{年金算定平均標準報酬 (K, X, T)} + \text{ボーナスの金額 (K, X, T)}) \\ * \text{職域部分乗率未満 (2003～) } W(X) * \text{組合員期間 (2003～) } W(K, X, \\ T) \div 12 * \text{年金改定率} W(K, X))$$

2. 組合員全期間計（K, X, T）が240ヶ月（20年）以上の場合

職域加算部分（2003～）（K, X）

$$= \Sigma T ((\text{年金算定平均標準報酬 (K, X, T)} + \text{ボーナスの金額 (K, X, T)}) \\ * \text{職域部分乗率以上 (2003～) } W(X) * \text{組合員期間 (2003～) } W(K, X, \\ T) \div 12 * \text{年金改定率} W(K, X))$$

○定額部分（K, X）

$$= \Sigma T (\text{基礎年金単価 (K, X)} * \text{経過的加算乗率} W(X) * \text{定額部分の組合員期間} \\ W(K, X, T) * \text{年金改定率} W(K, X))$$

○基礎年金部分（K, X）

$$= \Sigma T (\text{基礎年金基本額} W(K, X) * \text{組合員期間 (20～59歳) } 1961 \sim (K, X, T) \\ \div \text{国民年金加入月数 (X)})$$

※但し、基礎年金部分が基礎年金基本額Wより大きい場合

$$\text{基礎年金部分 (K, X)} = \text{基礎年金基本額} W(K, X)$$

○経過的加算額（K, X）

$$= \text{定額部分 (K, X)} - \text{基礎年金部分 (K, X)}$$

○加給年金（K, X）

$$= (\text{加給年金額配偶者 (K, X)} * \text{加給年金対象率退職共済年金配偶者 (X)} \\ + \text{加給年金額配偶者 (K, X)} * \text{加給年金対象率退職共済年金子供2人まで (X)} \\ + \text{加給年金額子3人以上 (K, X)} * \text{加給年金対象率退職共済年金子供3人以上 (X)}) \\ * \text{受給者数 (K, X)}$$

○特別加給年金 (K, X)

$$= \text{配偶者加算額} * \text{支給割合} W \div 5$$
$$* \text{加給年金対象率退職共済年金配偶者 (X)} * \text{受給者数 (K, X)}$$

○加給年金額 (K, X)

$$= \text{加給年金 (K, X)} + \text{特別加給年金 (K, X)}$$

退職共済年金の場合

・経過的加算乗率 W (X)

経過的加算乗率 (年齢別) を設定する。

・定額部分の組合員期間 W (K, X, T)

$$= \text{組合員全期間計 (K, X, T)}$$

1. 生年度が1929年(昭和4年)より前であつ、組合員全期間計 (K, X, T) が420ヶ月(35年)より大きい場合、420ヶ月を設定する。
2. 生年度が1934年(昭和9年)より前であつ、組合員全期間計 (K, X, T) が432ヶ月(36年)より大きい場合、432ヶ月を設定する。
3. 生年度が1944年(昭和19年)より前であつ、組合員全期間計 (K, X, T) が444ヶ月(37年)より大きい場合、444ヶ月を設定する。
4. 生年度が1944年(昭和19年)であつ、組合員全期間計 (K, X, T) が456ヶ月(38年)より大きい場合、456ヶ月を設定する。
5. 生年度が1945年(昭和20年)であつ、組合員全期間計 (K, X, T) が468ヶ月(39年)より大きい場合、468ヶ月を設定する。
5. 生年度が1946年(昭和21年)以後であつ、組合員全期間計 (K, X, T) が480ヶ月(40年)より大きい場合、480ヶ月を設定する。

・報酬比例部分乗率 (~2002) W (X)

給付乗率旧 (平成15年前) を設定する。

・報酬比例部分乗率 (2003~) W (X)

給付乗率新 (平成15年後) を設定する。

・職域部分乗率 (~2002) W (X)

1. 組合員全期間計 (K, X, T) が240ヶ月(20年)未満の場合
給付乗率旧未満 (平成15年前) を設定する。
2. 上記以外の場合
給付乗率旧以上 (平成15年前) を設定する。

・職域部分乗率 (2003~) W (X)

1. 組合員全期間計 (K, X, T) が240ヶ月(20年)未満の場合
給付乗率新未満 (平成15年後) を設定する。
2. 上記以外の場合
給付乗率新以上 (平成15年後) を設定する。

・基礎年金基本額W (K, X)

$$= \text{基礎年金額単価 (K, X)} * 480\text{ヶ月 (40年)}$$

・支給割合W

1. 生年度が1933年(昭和8年)以前の場合、ゼロを設定する。
2. 生年度が1939年(昭和14年)以前の場合、1を設定する。
3. 生年度が1940年(昭和15年)の場合、2を設定する。
4. 生年度が1941年(昭和16年)の場合、3を設定する。
5. 生年度が1942年(昭和17年)の場合、4を設定する。
6. 生年度が1943年(昭和18年)以後の場合、5を設定する。

・経過的要算額 (K, X)

1. 退職共済年金、退職年金、通算退職年金、減額退職年金の場合

(1) 新規裁定の場合

$$\text{経過的要算額 (K, X)} = \text{定額部分 (K, X)} - \text{基礎年金部分 (K, X)}$$

※年齢が65歳以上の場合、計算結果がマイナスになった場合、ゼロを設定する。

- (2) 退職年度が1986年(昭和61年)より前、または年齢が65歳未満の場合

$$\text{経過的要算額 (K, X)} = 0$$

(3) 上記以外の場合

- ① 施行日(昭和61年4月)時点の年齢が60歳以上(生年度1926年以前)の場合

$$\text{経過的要算額 (K, X)} = \text{定額部分 (K, X)}$$

- ② 上記以外の場合

$$\text{経過的要算額 (K, X)} = \text{定額部分 (K, X)} - \text{基礎年金部分 (K, X)}$$

※計算結果がマイナスになった場合、ゼロを設定する。

2. 退職共済年金(待機者の年齢到達)、待機者の場合

- (1) 年齢が65歳未満の場合

$$\text{経過的要算額 (K, X)} = 0$$

- (2) 上記以外の場合

- ① 施行日(昭和61年4月)時点の年齢が60歳以上(生年度1926年以前)の場合

$$\text{経過的要算額 (K, X)} = \text{定額部分 (K, X)}$$

- ② 上記以外の場合

$$\text{経過的要算額 (K, X)} = \text{定額部分 (K, X)} - \text{基礎年金部分 (K, X)}$$

※計算結果がマイナスになった場合、ゼロを設定する。

3. 上記以外の場合

$$\text{経過的要算額 (K, X)} = 0$$

3. 障害給付の推計

○障害公務上最低保障額W (K, X)

$$= \text{最低保障額公務上1級 (K, X)} * \text{障害共済年金の等級別発生割合公務上1級 (X)} \\ + \text{最低保障額公務上2級 (K, X)} * \text{障害共済年金の等級別発生割合公務上2級 (X)} \\ + \text{最低保障額公務上3級 (K, X)} * \text{障害共済年金の等級別発生割合公務上3級 (X)}$$

○障害報酬比例部分 (～2002) (K, X)

$$= \Sigma T (\text{年金算定平均標準報酬 (～2002) (K, X, T)} * 0.007125 \\ * \text{障害対象期間 (～2002) W (K, X, T)} \div 12 * \text{年金改定率W (K, X)})$$

○障害報酬比例部分 (2003～) (K, X)

$$= \Sigma T ((\text{年金算定平均標準報酬 (K, X, T)} + \text{ボーナスの金額 (K, X, T)}) \\ * 0.005481 * \text{障害対象期間 (2003～) W (K, X, T)} \div 12 \\ * \text{年金改定率W (K, X)})$$

○障害公務上報酬比例部分 (～2002) (K, X)

$$= \Sigma T (\text{障害報酬比例部分 (～2002) (K, X, T)} * (1.25 * \text{障害共済年金の等} \\ \text{級別発生割合公務上1級 (X)} + \text{障害共済年金の等級別発生割合公務上2級 (X)} \\ + \text{障害共済年金の等級別発生割合公務上3級 (X)}))$$

○障害公務上報酬比例部分 (2003～) (K, X)

$$= \Sigma T (\text{障害報酬比例部分 (2003～) (K, X, T)} * (1.25 * \text{障害共済年金の等} \\ \text{級別発生割合公務上1級 (X)} + \text{障害共済年金の等級別発生割合公務上2級 (X)} \\ + \text{障害共済年金の等級別発生割合公務上3級 (X)}))$$

○障害公務上職域基本額W (K, X, T)

$$= \text{障害公務上職域基本額 (～2002) W (K, X, T)} \\ + \text{障害公務上職域基本額 (2003～) W (K, X, T)}$$

○障害公務上職域基本額 (～2002) W (K, X, T)

$$= \text{年金算定平均標準報酬 (～2002) (K, X, T)} \\ * (((0.285 + 0.001781 * (\text{障害対象期間W (K, X, T)} \\ - 300\text{ヶ月}) \div 12) * \text{年金改定率W (K, X)}) \\ * \text{障害共済年金の等級別発生割合公務上1級 (X)} \\ + (((0.19 + 0.001425 * (\text{障害対象期間W (K, X, T)} - 300\text{ヶ月}) \\ \div 12) * \text{年金改定率W (K, X)}) \\ * \text{障害共済年金の等級別発生割合公務上2級 (X)} \\ + (((0.19 + 0.001425 * (\text{障害対象期間W (K, X, T)} - 300\text{ヶ月}) \\ \div 12) * \text{年金改定率W (K, X)}) \\ * \text{障害共済年金の等級別発生割合公務上3級 (X)} \\ * \text{障害期間率 (～2002) W (K, X, T)}$$

○障害公務上職域基本額（2003～）W（K，T）

$$\begin{aligned} &= (\text{年金算定平均標準報酬 (K, X, T)} + \text{ボーナスの金額 (K, X, T)}) \\ &\quad * (((0.21923 + 0.001370 * (\text{障害対象期間W (K, X, T)} - 300 \\ &\quad \text{ヶ月}) \div 12) * \text{年金改定率W (K, X)}) \\ &\quad * \text{障害共済年金の等級別発生割合公務上1級 (X)} \\ &+ ((0.14615 + 0.001096 * (\text{障害対象期間W (K, X, T)} - 300 \\ &\quad \text{ヶ月}) \div 12) * \text{年金改定率W (K, X)}) \\ &\quad * \text{障害共済年金の等級別発生割合公務上2級 (X)} \\ &+ ((0.14615 + 0.001096 * (\text{障害対象期間W (K, X, T)} - 300 \\ &\quad \text{ヶ月}) \div 12) * \text{年金改定率W (K, X)}) \\ &\quad * \text{障害共済年金の等級別発生割合公務上3級 (X)} \\ &\quad * \text{障害期間率 (2003～) W (K, X, T)} \end{aligned}$$

○公務調整額（～2002）（K，X）

$$\begin{aligned} &= \Sigma T (\text{年金算定平均標準報酬 (～2002) (K, X, T)} \\ &\quad * (0.285 * \text{障害共済年金の等級別発生割合公務上1級 (X)} \\ &\quad + 0.19 * \text{障害共済年金の等級別発生割合公務上2級 (X)} \\ &\quad + 0.19 * \text{障害共済年金の等級別発生割合公務上3級 (X)} \\ &\quad * \text{障害期間率 (～2002) W (K, X, T)}) * \text{年金改定率W (K, X)} \end{aligned}$$

○公務調整額（2003～）（K，X）

$$\begin{aligned} &= \Sigma T ((\text{年金算定平均標準報酬 (K, X, T)} + \text{ボーナスの金額 (K, X, T)}) \\ &\quad * (0.21923 * \text{障害共済年金の等級別発生割合公務上1級 (X)} \\ &\quad + 0.14615 * \text{障害共済年金の等級別発生割合公務上2級 (X)} \\ &\quad + 0.14615 * \text{障害共済年金の等級別発生割合公務上3級 (X)} \\ &\quad * \text{障害期間率 (2003～) W (K, X, T)}) * \text{年金改定率W (K, X)} \end{aligned}$$

○障害公務上職域加算部分（～2002）（K，X）

1. 障害公務上最低保障額W（K，X，T）が（障害公務上報酬比例部分（～2002）+（2003～））（K，X，T）+ 障害公務上職域基本額W（K，X，T）より大きい場合

障害公務上職域加算部分（～2002）（K，X）

$$\begin{aligned} &= \Sigma T (\text{障害公務上最低保障額W (K, X, T)} \\ &\quad * \text{障害公務上報酬比例部分 (～2002) 率W (K, X, T)} \\ &\quad - \text{障害公務上報酬比例部分 (～2002) (K, X, T)}) \end{aligned}$$

※但し、障害公務上報酬比例部分（～2002）率W（K，X，T）は以下の計算で算出する。

$$\begin{aligned} &\text{障害公務上報酬比例部分 (～2002) 率W (K, X, T)} \\ &= \text{障害公務上報酬比例部分 (～2002) (K, X, T)} \\ &\quad \div \text{障害公務上報酬比例部分 ((～2002)} \\ &\quad + \text{(2003～)) (K, X, T)} \end{aligned}$$

2. 上記以外の場合

$$\begin{aligned} & \text{障害公務上職域加算部分 (}\sim 2002\text{)} (K, X) \\ & = \Sigma T (\text{障害公務上職域基本額 (}\sim 2002\text{)} W (K, X, T)) \end{aligned}$$

○障害公務上職域加算部分 (2003～) (K, X)

1. 障害公務上最低保障額 $W (K, X, T)$ が (障害公務上報酬比例部分 ((～2002) + (2003～)) (K, X, T) + 障害公務上職域基本額 $W (K, X, T)$) より大きい場合

$$\begin{aligned} & \text{障害公務上職域加算部分 (2003～) (K, X)} \\ & = \Sigma T (\text{障害公務上最低保障額 } W (K, X, T) \\ & \quad * \text{ 障害公務上報酬比例部分 (2003～) 率 } W (K, X, T) \\ & \quad - \text{ 障害公務上報酬比例部分 (2003～) (K, X, T)}) \end{aligned}$$

※但し、障害公務上報酬比例部分 (2003～) 率 $W (K, X, T)$ は以下の計算で算出する。

$$\begin{aligned} & \text{障害公務上報酬比例部分 (2003～) 率 } W (K, X, T) \\ & = 1 - \text{障害公務上報酬比例部分 (}\sim 2002\text{) 率 } W (K, X, T) \end{aligned}$$

2. 上記以外の場合

$$\begin{aligned} & \text{障害公務上職域加算部分 (2003～) (K, X)} \\ & = \Sigma T (\text{障害公務上職域基本額 (2003～) } W (K, X, T)) \end{aligned}$$

○障害公務外報酬比例部分 (～2002) (K, X)

$$\begin{aligned} & = \Sigma T (\text{障害報酬比例部分 (}\sim 2002\text{) (K, X, T)} \\ & \quad * (1.25 * \text{障害共済年金の等級別発生割合公務外1級 (X)} \\ & \quad + \text{障害共済年金の等級別発生割合公務外2級 (X)} \\ & \quad + \text{障害共済年金の等級別発生割合公務外3級 (X)})) \end{aligned}$$

○障害公務外報酬比例部分 (2003～) (K, X)

$$\begin{aligned} & = \Sigma T (\text{障害報酬比例部分 (2003～) (K, X, T)} \\ & \quad * (1.25 * \text{障害共済年金の等級別発生割合公務外1級 (X)} \\ & \quad + \text{障害共済年金の等級別発生割合公務外2級 (X)} \\ & \quad + \text{障害共済年金の等級別発生割合公務外3級 (X)})) \end{aligned}$$

○障害職域加算部分 (～2002) (K, X)

$$\begin{aligned} & = \Sigma T (\text{年金算定平均標準報酬 (}\sim 2002\text{) (K, X, T)} \\ & \quad * 0.001425 * \text{障害対象期間 (}\sim 2002\text{) } W (K, X, T) \\ & \quad \div 12 * \text{年金改定率 } W (K, X)) \end{aligned}$$

○障害職域加算部分 (2003～) (K, X)

$$\begin{aligned} & = \Sigma T ((\text{年金算定平均標準報酬 (K, X, T) + ボーナスの金額 (K, X, T)}) \\ & \quad * 0.001096 * \text{障害対象期間 (2003～) } W (K, X, T) \\ & \quad \div 12 * \text{年金改定率 } W (K, X)) \end{aligned}$$

○障害公務外職域加算部分（～2002）（K, X）

$$\begin{aligned} &= \Sigma T \text{（障害職域加算部分（～2002）（K, X, T）} \\ &\quad * \text{（1.25 * 障害共済年金の等級別発生割合公務外1級（X）} \\ &\quad + \text{ 障害共済年金の等級別発生割合公務外2級（X）} \\ &\quad + \text{ 障害共済年金の等級別発生割合公務外3級（X）））} \end{aligned}$$

○障害公務外職域加算部分（2003～）（K, X）

$$\begin{aligned} &= \Sigma T \text{（障害職域加算部分（2003～）（K, X, T）} \\ &\quad * \text{（1.25 * 障害共済年金の等級別発生割合公務外1級（X）} \\ &\quad + \text{ 障害共済年金の等級別発生割合公務外2級（X）} \\ &\quad + \text{ 障害共済年金の等級別発生割合公務外3級（X）））} \end{aligned}$$

○加給年金（K, X）

1. 障害共済年金（公務上）の場合

加給年金（K, X）

$$\begin{aligned} &= \text{加給年金額配偶者（K, X）} * \text{配偶者加給該当（X）} * \text{受給者数（K, X）} \\ &\quad * \text{（障害共済年金の等級別発生割合公務上1級（X）} \\ &\quad + \text{ 障害共済年金の等級別発生割合公務上2級（X））} \end{aligned}$$

2. 障害共済年金（公務外）の場合

加給年金（K, X）

$$\begin{aligned} &= \text{加給年金額配偶者（K, X）} * \text{配偶者加給該当（X）} * \text{受給者数（K, X）} \\ &\quad * \text{（障害共済年金の等級別発生割合公務外1級（X）} \\ &\quad + \text{ 障害共済年金の等級別発生割合公務外2級（X））} \end{aligned}$$

$$\text{加給年金額（K, X）} = \text{加給年金（K, X）}$$

・障害対象期間W（K, X, T）

$$= \text{組合員全期間計（K, X, T）}$$

※但し、障害対象期間Wが300ヶ月（25年）未満の場合

$$\text{障害対象期間W（K, X, T）} = 300 \text{ヶ月を設定する。}$$

・障害対象期間（～2002）W（K, X, T）

$$= \text{組合員期間（～2002）W（K, X, T）}$$

※但し、障害対象期間Wが300ヶ月（25年）未満の場合

$$\text{障害対象期間（～2002）W（K, X, T）}$$

$$= \text{組合員期間（～2002）W（K, X, T）}$$

$$* \text{ 障害対象期間W（K, X, T）} \div \text{ 組合員全期間計（K, X, T）}$$

・障害対象期間（2003～）W（K, X, T）

$$= \text{組合員期間（2003～）W（K, X, T）}$$

※但し、障害対象期間Wが300ヶ月（25年）未満の場合

$$\text{障害対象期間（2003～）W（K, X, T）}$$

$$= \text{障害対象期間W（K, X, T）} - \text{ 障害対象期間（～2002）W（K, X, T）}$$